

P1-022

1型糖尿病を発症した2歳11か月女児の看護—生活リズムを整え、食生活が改善した事例を通しての学び—

高羅 みゆき、守永 美希、石橋 弘己、
小間井 和代

中野こども病院 看護部

【はじめに】

1型糖尿病は血糖コントロールのための血糖測定、インスリン注射および低血糖・高血糖状態への対応が生涯必要な疾患である。幼児期は基本的な生活習慣を獲得し、幼稚園・小学校など学校生活を通して社会性を身につけていく時期である。今回、某小児科病院において、1型糖尿病を発症した2歳11か月女児についての看護介入をまとめたので報告する。

【事例紹介】

2歳11か月女児、幼稚園通園予定。専業主婦の母親と自宅勤務の父親、小学生の兄の4人家族。起床時間は11時、就寝時間は23時で食事時間は決まっておらず、菓子類の摂取が多く、1日に3回600mlのミルクを哺乳していた。入院期間は19日間であった。

【倫理的配慮】

個人が特定されないようプライバシーの保護に十分配慮し、症例発表することの同意を得た。

【看護の実践】

第1期の看護目標を『基本的な生活リズムを整え、1日3食食事がとれる』とし、多職種カンファレンスを行い、医療従事者の役割を可視化した。看護師は日課表を作成し、生活リズムを整えた。保育士は遊びを通して、コミュニケーションを図った。心理士は兄の発達の見立て、栄養士は食事摂取時の観察を行った。入院3日目には7時起床、21時就寝、3食全量摂取できるようになった。

第2期の看護目標を『両親が疾患を理解し、療養行動ができる』とし、教育を開始した。血糖測定とインスリン注射は入院5日目に母親が、1週間後には父親が習得できた。兄は食事前に血糖測定とインスリン注射をすることを理解し、指を出し、服を上げて腹部を出した。入院8日目、低血糖の説明を行い、試験外泊をした。外泊中、食事が全量摂取できていたため、カーボカウントを導入。入院12～14日目に、2回目の外泊を行い、入院15日目、シックデイ、合併症の説明、入院16日目、薬剤師からカートリッジの交換方法・グルカゴンの注射の説明を行った。退院前にMSWを介して通園予定の幼稚園に受け入れ態勢を確認し、退院後は内分泌外来と連携し現在は専門医（大学病院）で治療中である。

【考察】

糖尿病療養行動につなげるため、両親をキーパーソンとし介入をすすめた。専門職がそれぞれの役割を実践することで早期に生活リズムを整えることができた。また両親の子育てにおける思いを尊重し、看護師・保育士が生活援助や遊びを行うことで信頼関係が構築でき、疾患の受け入れができたと考える。

P1-023

幼稚園・保育所でのプレパレーションの応用

高野 貴子、内城 美咲子

東京家政大学家政学部 児童学科

【目的】

患者へのインフォームド・コンセントは、もの心ついた子どもにも必要であり、近年はインフォームド・アセントとして浸透しつつある。看護分野では小児患者の検査や手術の前に、具体的な手技を用いてプレパレーションを行い、不安を軽減することによって、医療行為に対するインフォームド・アセントを促すことが行われている。このようなプレパレーションは、これから行われる行為に対する『心の準備』として、小さい子どもには有効であり、医療や看護の分野だけでなく、幼稚園や保育所でも応用すべきであると考えた。

【方法】

文献、本、インターネットなどから保育の現場でプレパレーションが行われているかを調べた。

【結果】

幼稚園や保育所では、看護分野で行われているプレパレーションの概念は浸透していない。2009年の高野らの報告では、統合保育は73.1% (720/985園)、そのうち幼稚園では62.5%、保育所では80.1%の園で実施されていて、多様な障害を持った子どもが幼稚園や保育所で健常な子どもと共に保育されていた。したがって、健常な子どもたちやその保護者へも理解しやすい病気や障害の説明が望まれる。年齢が低く理解の遅い子や障害のある子には、工夫をした説明が必要となる。また、入園して間もない年少児の健康診断においては、予防注射の経験から白衣を着た医師を怖がる子どもたちに、その必要性をわかりやすく伝えておいたほうが良い。このように幼稚園・保育所でのさまざまな生活や行事の中で、事前に十分な説明が必要な場面は数多くあり、それを抽出した。これらをプレパレーションと捉えて保育士が配慮することによって、園児の疑問や不安を軽減することができる。視覚教材（絵カード、塗り絵、紙芝居、スケッチブックシアター、パネルシアターなど）を準備し、クイズ、すごろく、シールなどを活用することを提案する。年齢を考慮したわかりやすい平易な説明を心がける一方で、年長児にはキャラクターを使いすぎないなどの注意も必要である。

【考察】

幼稚園・保育所でのプレパレーションは、単に子どもへ事前説明をしておくという事ではなく、子どもの立場で物事を捉え、子どもと共に『心の準備』としてのプレパレーションを形成するという姿勢が保育士に求められる。